

新年明けましておめでとうございます。

皆様には輝かしい平成二十年の新年を迎えたましたこと、最も皆様方によりまして、最良の年になりますことをご祈念申し上げます。

昨年は、企業による食品偽装の発覚や、官僚・政治家の汚職の摘発、混迷国会など、われわれ国民は何を信じて暮らせばよいのか、大変不安を感じる年でありました。

このような混迷する時代、だからこそ、私たちひとり一人が社会規範・道徳などを深く自覚し、冷静に行動することが求められています。

さて、皆様もマスコミ報道などでご承知だと思いますが、今、国・県とも大きな借金を抱え、

新年明けましておめでとうございます。皆様には、健康で、希望に満ちた初春を迎えられましたことをお喜び申し上げます。昨年は、昭和二十二年五月三十日に地方自治法が施行されて六十周年に当たる極めて意義深い年でありました。このような大きな節目の年に当たり、地方自治の意義と重要性を再認識し、地方自治体の発展と地方自治の問題、過疎・過密の同時進行、少子高齢化社会などに直面し、まさに行政の真価が問われております。



まえだ さぶろう
鮫川議會議長 前田 三郎

Saburo MAEDA



だいらく かつのり
鮫川村長 大樂 勝弘

Katsuhiko DAIRAKU

そのしわ寄せが市町村財政を直撃しております。そのために、本村の財源の半分を占めております地方交付税が大きく減額されるなど、大変厳しい時代を迎えております。特に本村は、生産性の低い農業が基幹産業の村であります。わけても、ここ数年の米価の下落により、米づくりが生産費を割込むようになり、農家の生産意欲が急速にしぼみ、道路沿いの水田まで耕作放棄地が見られるようになりました。

また、農業の衰退は地域経済・商店街の衰退に直結するものであります。しかし、農業の振興こそ村の繁栄であり、国の農村・農業政策に怒りが込み上げて来るものであります。

しかしながら、私たちの祖先は、極めて未熟な農業技術と幼稚な流通手段しか持ち得なかつた時代、幾度となく大災害に見

舞われながらも、その都度、英知を尽くして克服してまいりました。今こそ、私たちは、これらの歴史の教訓に学び、困難に屈することなく、村民の英知を結集し、災い転じて福と成すべく、努力を傾注してまいりたいと考えております。農業の営みは、経済効果とともに、地域の活性化・魅力の基になる文化や自然生態系・景観などの振興にも直結し、さらには人と人との繋がりを再生するという効果も期待できます。私はこのような立場から、農業の振興こそ村の繁栄に繋がる道であると確信している訳であります。

現在、村の大きな課題のひとつに定住人口の維持があります。その対策として公営住宅の建設を始めとして、安心安全・環境と人に優しい「有機の里づくり」

これからも、安心して暮らせる村、人に選んでいただける魅力ある村とはどのような村であるのか、皆様とともに探求してまいりたいと考えておりますので、積極的なご意見・ご提案をお寄せいただきたく、宜しくお願い申し上げます。

本村の自立に向けた政策の実行については、第三次鮫川村長期振興計画の理念に基づき、「豆で達者な村づくり」の推進、旧西野小学校の廃校の活用も期待に添うべく真剣に取り組んでいるところです。

本村の自立に向けた政策の実行については、第三次鮫川村長期振興計画の理念に基づき、農業の振興対策、学校の耐震対策など課題が山積みしていますが、将来にわたり、村が自立していくために財政の健全性を確立しながら、住民の皆様が将来に向かつて明るい希望が持て、ゆとりと豊かな実感できる生活重視の政策も大事になつて来るものと考えております。

住民の皆さんと協働しながらこれらに立ち向かっていきたいと考えています。

今年も皆様にとりまして、実り多い年でありますようお祈りし、新年のあいさつといったします。